

『ふるむ・マラウイ』～チンテチェ～

1st /September/2012 第28号

Muli bwanji ! (ムリブワンジ：チェワ語でこんにちは、ご機嫌いかがの意)

前は、マラウイ湖の南、ケープマクレアを紹介しましたが、今回はマラウイ湖の北部チンテチェを紹介します。チンテチェは、北部の中心都市ムズズから東へ約90kmに位置する地域です。白い砂浜と透明な湖面が大変美しく、リゾートとして多くの観光客が訪れます。どちらかと言うと、マラウイ国内で仕事をしている外国人が多いように思われます。北部の方が南部に比べ水質等が良いと言われています。住民の生活圏がケープほど沿岸に広がっていないせいかもしれません。



湖岸からのぞむマラウイ湖(ケープとはまた違う風景)

また、雨期の初め(12月～1月)頃に湖から煙のようなものが湧き上がります。これは、実は『蚊柱』です。蚊の仲間であるフサカが一斉に羽化している様子です。雨期のはじめの気温が上がる前の午前中に起きる現象です。蚊柱の高さは湖面から数百mにもなると言います。その数は数十億匹にもなるとのことです。マラウイ湖は美しい風景だけでなく生命の不思議な現象も見せてくれます。



湖面から湧き上がる蚊柱(囲み中の煙のようなもの)

